

## 中学生2名の踏切事故を受けての要請書

流山市長 井崎 義治 様  
流山市教育長 田中 弘美 様

2020年10月19日  
日本共産党流山市議団・同党市委員会

9月16日、30日、同校の男子中学生2名が、同一踏切で、命を失いました。痛恨の極みであり、ご冥福をお祈りすると共に、ご遺族、ご学友、学校関係者に心よりお悔やみを申し上げます。

多くの市民も、深い悲しみと同時に、ケアやサポート、事故調査委員会の早期調査の着手など、必要な人員配置と予算確保を行い、事実解明、徹底した再発防止を願っています。

振り返れば、1996年4月、市内中学3年男子生徒の自殺がありました。今年5月には江戸川台西踏切で、2歳娘を連れて踏切に潜入した20代女性が自殺未遂で逮捕される事件も発生しており、今2事案を含め、命を守る取り組みが大変重要と考えます。そこで以下、要望します。

### 記

- 1、今2事案は、命の尊さを深く考える機会とし、ご遺族、児童・生徒等へのサポート・ケアを徹底するとともに、SOSなど児童・生徒からの発信を学校組織で共有化を図るため、体制強化すること。
- 2、保護者説明会の設定や事故調査委員会の設置方針は本来1件目の事案後、迅速にすべきであったことを教訓化すること。  
調査会の調査スケジュールを明確にし、調査会には誠実で精力的な対応を保障すること。
- 3、再発防止、生徒らの安心につなげるための必要な人員配置また予算等を増額し、以下のことを検討し、必要に応じ適宜実施すること。
  - (a) 学校・市教委と事故調査委員会の円滑な運営、適切で迅速な調査を保障するため、文部科学省が必要に応じ配置を求めているコーディネーターを配置すること。
  - (b) 広く自殺防止に必要なゲートキーパーを配置すること。
  - (c) 市内全踏切の安全点検を行い、安全対策に必要な整備・装備について、鉄道事業者へ要請すること。
  - (d) 2016年4月から法律改正が実施され、市に策定が義務化された「自殺基本対策計画」をつくること。また、9月「自殺予防週間」、3月「自殺対策強化月間」などを活かし、市民レベルでの取り組みを支援すること。
  - (e) 自己責任や各家庭の個別的責任と矮小化せず、人権や命を考える本市独自の期間指定など、絶対にこの悲劇や痛みを忘れない取り組みを行うこと。

以上